

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		06 04 03	中期総合計画主要施策番号		1-04、2-02	担当課	部・課	環境部 自然保護課		
事業名		保護対策事業 (希少野生動植物保護対策事業、自然環境保全事業)					内線	2778		
							E-mail	shizenhogo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・希少野生動植物の生息・生育環境を保護回復し、生物の多様性の確保を図る。 ・長野県自然環境保全条例に基づく指定地により、優れた自然環境及び歴史的景観の保護・保全を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・多くの希少野生動植物が絶滅の危機に瀕している。								
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・希少野生動植物の生息・生育環境の悪化や盗掘により、種の個体数が減少している。								
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・絶滅が危惧されている希少野生動植物を、民間団体等の幅広い活動により、希少野生動植物の生息・生育環境の保全を図り、生物の多様性を図る必要がある。								
	事業内容	・希少野生動植物保護対策委員会を開催し、保護回復の指針となる、保護回復事業計画を策定する。 ・自然環境保全条例に基づく県自然環境保全地域、郷土環境保全地域の指定と指定地における施設(標識板)の設置を行う。 ・貴重な高山植物等をニホンジカによる食害から防ぐため、効果的な防護方法の実証を行う。								
実施期間	S46 ~		根拠法令等 長野県希少野生動植物保護条例、長野県自然環境保全条例							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	・希少野生動植物の保護回復の指針となる、保護回復事業計画を策定し、その種とその種を取り巻く生育環境の保全を図る。 ・平成24年度の希少野生動植物保護回復事業による計画策定数を10種とする。		・希少野生動植物保護対策委員会を開催し、平成24年度の目標達成にむけて、2種の保護回復事業計画の策定を行う。			・平成20年度には2種の保護回復事業計画を策定し累計で6種となり、順調に増加した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	15,002	11,823	2,105	国庫・県単 国庫・県単			
	決 算 額 (B)		千円	13,804	11,142		実施方法 直接・委託			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	1,708	6,265	1,137	歳出節別内訳等 報酬:230 委託料:6,585 原材料費:827			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.50	3.50	2.00	(単位: 千円)			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	38,794	36,813	16,403				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	保護回復事業計画		種類	2	2	1	霧ヶ峰において、シカ防護柵1600mを設置し、併せて、シカの行動追跡調査を実施した。			
	希少野生動植物保護監視員委嘱数		人	95	19	20				
	自然・郷土環境保全地域		箇所	44	44	44				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・希少野生動植物が危機的状況にあるため、県が保護回復事業計画を策定し、保護対策の充実を図る必要がある。 ・県が指定した県自然環境保全地域等の指定地については、標識板等により紹介する必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・希少野生動植物について、引き続き保護回復事業計画の策定を行い、保護回復の進捗管理を行う。 ・県自然環境保全地域等の標識板について、引き続き更新を進め、広く県民に紹介する。 ・ニホンジカによる植生被害対策について、実施した行動追跡調査の結果を踏まえ、引き続きシカ防護柵を設置し、効果的な防護方法の確立を図る。							